

# 第3章

## 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

**ねらい** 過去の災害の教訓に学び、備える

- ◎過去の災害からの教訓や、防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



一人一台のモバイル端末を活用した「命」の授業 (神代中学校)

## 3-1 第一小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 学校が避難所になったとき、どのように行動したらよいか

第4学年

地震災害後の暮らしで起こる状況を出し合った後、学校が避難所になったときに、自分たちがどのように行動したらよいかということについて話し合いました。避難所では、お年寄りや小さな子どもがいるので、助け合いが必要であることに気づき、どのようなことが自分にできるかと考えました。また、昨年度マンホールトイレが設置されたことを知り、みんなで使うものはきれいに使いたいと意識を高めることができました。

日頃から食べ物や飲み物などをはじめ、災害時に必要なものをしっかり備えたいと感想をもちました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「地震発生時の身の守り方」

講師 第一小学校副校長 飯島 慶裕 氏

第6学年

6年生は、副校長を講師として、大きな地震が起きたときには、まず自分の身を守ること、大きな揺れがおさまってから火の始末をすることを学びました。その後、起震車を使って阪神淡路大震災における震度7と同じ揺れを体験しました。起震車の様子からどのくらい揺れるのか分かったつもりでも、実際に揺れを体験してみると、震度7では手すりにつかまって自分の体を支えるのが精いっぱい、ほかに何もできないことが分かりました。どの子どもたちも、真剣な表情で取り組み、防災意識を高めることができました。



## 3-2 第二小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「命の大切さ」

全学年

2時間目に全校で「命の大切さ」をテーマとした授業を行いました。3年生～6年生は、1時間目の消防署の方からの講演を受け、災害が起きたときの行動についての学習に取り組みました。

「お風呂の水をためておくのはなぜでしょう。」「この教室で地震が起きたらどうする。」と、子供たちに問いかけ、自分たちで考えていく授業が行われました。1年生と2年生は、道徳の学習の中で「命の大切さ」を学んでいました。「象のアヌーラは、病気になっても、どうして横にならなかったのでしょうか」という問いかけに、子供たちなりの考えを導き出していました。

低学年での命の大切さの学習。中・高学年での命を守るためにできる行動を考える学習。6年間の学と成長を通して、防災教育を学んでいくことができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「自分の命を守る」

講師 調布消防署員

第3～6学年

1時間目に3年生～6年生は、「自分の命を守る」というテーマで消防署の方に講演していただきました。その中でのキーワードを3つ教えていただきました。

「必ず来る」 「被害はある」 「自分の身は自分で守る」

首都直下地震は、今日か明日か30年後かと、いつ地震発生するか予測できず、発生すれば、誰もが必ず何かしらの被害を受ける。そのために普段から、行動の約束を家族で話し合うことや家庭での非常用物品の備えが大切になってくる。地震が起こった際の行動と地震が収まった後の行動を家族で決めごとを話し合う必要がある。また、3日間生き延びるための食糧、飲料を家庭で用意する必要がある。と詳しく教えていただきました。最後に一番大事なことは、「自分で自分を守ることができるようになること」である。と教えていただきました。



## 3-3 第三小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「地震に備えて」～防災アクションを起こそう～

第3学年

3年生は、阪神・淡路大震災、東日本大震災の被害状況を映し出した映像をもとに、災害の恐ろしさと被害の大きさを学びました。その上で10問の防災クイズに答え、児童の真剣な態度から防災への意識の高まりを感じました。

最後に、どこに危険が潜んでいるのか、どのように日頃から防災を考えて準備をすればよいのかを考える活動を行いました。ワークシートにまとめることで、普段から災害時に危険になりそうな場所を見付ける視点や、具体的な準備について確認することができました。

「命」の授業をきっかけに、家庭でも話題にすることによって、各家庭でも防災アクションを起こしてほしいと願っています。



### ◆ 児童・生徒への防災啓発活動・体験

#### 「災害が起きた時、あなたが生き残るために」

講師 第三小学校地区まちづくり協議会理事 中村 佳文 氏

第3～6学年

2019年10月、台風19号の影響で本校が避難所となった際、実際に携わってくださった中村佳文様をお迎えし、3～6年生に向けて防災啓発講話を実施しました。関東大震災時の大きな被害は火災だったこと、東日本大震災以降、どの地域でも津波に関する備えがだいぶ進んでいること等も含め、以下のように具体的な事例を挙げながら御講話いただきました。



「災害の種類によって、どのように行動するかは変わってきます。一昨年台風のように、水害の場合には、また三小は避難所になるでしょう。大地震の場合、学校に避難しても落ち着いたら家の様子を見に帰り、家の状況が大丈夫であれば自分の家で過ごすことになるでしょう。家が倒壊してしまって安全に過ごすことが難しい状況であれば、学校が避難所になることもあります。避難所で生活をしなければならぬときに、小学生でもできることがあります。それは自分より小さい子たちに『大丈夫だよ』と声をかけることです。大人はけがをしていなければ、いろいろやらなければならないことがあります。その時に、自分よりも小さい子たちに声をかけて安心させてくれるととても助かります。」とお話いただき、災害時の自助、共助について考えることができました。

## 3-4 八雲台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「命の大切さ」～被災者からのメッセージ～

第6学年

6年生の授業は、東日本大震災の被害の状況について知るところから始まりました。被害の大きさや数を知ると、その深刻さに子どもたちは息をのんでいました。その後、被災者はどのようなことに困っていたのか、また、日頃からどのような備えをすべきなのかを話し合いました。被災者が避難生活をする時になくて困ったものを紹介すると、意外な物がたくさん出てきて、子どもたちは驚きの声を上げていました。

最後に「まどさんからの手紙」を読み、改めて、命の大切さについて考えました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「君の命を守りたい」～どんなことがあっても生き残るために～

講師 調布消防署深大寺出張所 所長 匂坂 喜代太 氏

全学年

匂坂喜代太所長に、Zoomを利用して教室にいる児童に講話をしていただきました。東日本大震災と阪神淡路大震災の災害画像とともに当時の被災状況を詳しく説明してくださいました。その中で、匂坂さんは「どんなことがあっても生き残ってほしい」と強調して子どもたちに伝えていました。

自然災害はなくすことはできないけれど、少しでも被害を小さくするために、日ごろからの備えが大切だということを教えていただきました。



## 3-5 富士見台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 自分の命は自分で守る～自分でできる応急手当～

第5学年

5年生は、三角巾を使った応急救護について学習しました。まず、子どもたちは阪神淡路大震災でのけが人の数や被害の写真を見て、地震の被害の重大さを感じました。その後、東京都直下型地震で予想されるけが人の数と、現在東京都にある救急車の数を照らし合わせることで、自分たちで応急処置をする必要性に気付くことができました。

また、実際に三角巾を使って緊急時の腕のつり方や手の被覆法についてペアで協力しながら体験をしました。三角巾の端を合わせたり何度も折り込んだりすることの難しさを感じながらも、非常時の応急処置の仕方を肌で感じることができました。



### ◆ 児童・生徒の啓発活動・体験

#### 災害から大切な何かを守るために～いま、わたしたちにできること～

講師 防災教育コーディネーター 宮崎 賢哉 氏

第4～6学年

防災教育コーディネーターの宮崎賢哉先生を講師に迎え、お話をいただきました。

子どもたちに身近な生活の中での事象や経験を振り返らせながら、防災に関する興味関心を高めさせるとともに、クイズや多種多様な映像資料を用いた分かりやすい説明によって児童は楽しみながら防災について学ぶことができました。

東日本大震災を体験した被災者（中学生や教員）の体験談や、子どもであっても助けられる側だけでなく助ける側の役割を担えるように訓練する様子の映像を通して、自助だけでなく共助の大切さを学ぶことができました。「震災が起きた時、まずは自分の命を守ることが、周りの命を救うことに繋がる」という言葉が印象に残りました。地域のハザードマップについても解説していただき、水害への防災意識も高めることができました。



## 3-6 滝坂小学校

### ◆ 「命」の授業

#### とるべき行動を考えよう

第4学年

「一人で台所にいる時に、大きな地震が起こったら…」という状況を考え、発表しました。「物が割れた破片が散らばっている」「家具が倒れてきて逃げにくくなる」等々、これまでの経験や知識から推測し、安全に避難する方法について、「東京防災」を使って学習しました。避難時には、足を守ることが大切であるということを確認した後、実際に新聞紙でスリッパづくりを行いました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「地震発生時の身の守り方」

講師 元岩手大学客員教授 高橋 寛 氏

第4～6学年

元岩手大学客員教授 高橋寛（たかはしかん）先生から防災について講話をいただきました。高橋先生は、岩手県内の元中学校校長であり、退職後、東日本大震災で被災された方です。本校の同窓生と対談しながら、当時の様子や大震災から教わることを写真やビデオを交えながら語っていただきました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、あらかじめビデオに録画し、各学級で視聴するという形で行いました。高橋先生が震災を経験して学んだことは、

- ① 自分の命は自分で守る。
  - ② 災害は忘れたころにやってくるので、いざという時のために防災訓練を続けることが大切。
  - ③ 仲間を信じ、明日への希望をもつこと。
- とのことでした。



## 3-7 深大寺小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 大きな地震が起きた時 ー私たちの生活はどうなるのかー

第6学年

もし、首都直下大地震が起きた時、自分はどうか対応するか、話し合いました。調布の町がどのように変化し、自分たちの生活がどのように不便になるかを実感できるようなスライドの内容にしました。

地震直後から、分ごとに状況が変わり、第2次、第3次被害が増えていくことを学びました。自分たちの生活が脅かされる状況を予想し、地震直後にどう行動するかを考えてワークシートに記入しました。「習い事等で出かけているときに、どのように連絡を取って、安全を確保するのか考えることができました」「災害に備えて、家族と約束事を決めたい」という感想をもつことができました。

日頃の備えの大切さを実感し、いざというときのための意識を高めることができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防火防災に関する訓練(消火器訓練)

講師 調布消防署員

第4学年

調布消防署員による消火器訓練を実施しました。いざという時に備えて、消火器の操作方法を学ばねらいで行いました。

消防署の方に消火器の使い方を教えていただき、4年生の児童が消火器での消火訓練を行いました。「消火器を初めて触った」という児童もいて、防災への意識を高めるとともに、災害のときに自分たちができることを増やそうとする気持ちを高める体験活動になりました。





## 3-8 上ノ原小学校

### ◆ 「命」の授業

持ち出し袋に入れる物を考えよう！

第4学年

災害に備えて、避難用持ち出し袋に入れる物を考えました。最小限に荷物をしぼりたいので、必要なものを厳選する必要があります。教師が用意した34種類の物の中から10種類を選び、理由も考えました。学級全体での発表場面では、「自分もそれを選んだ」と共感したり、「なるほど。だから〇〇を選んだのね」と納得したりする姿が見られました。「新聞紙は体を温めるのに役立つ」や「インスタントラーメンの容器は食べた後にも使い道がある」等、避難時の生活を具体的にイメージし、物の多様な使い方についてよく考えられた意見も多かったです。最後に、教師が示していない35種類目、全員に選んでほしい一品は何か、考えました。私たち人間にとって欠かせないのは…、多くの子どもが「水」と解答。人間の生命活動の維持に水が不可欠なことを改めて確認しました。災害発生時の避難訓練を毎月行い、安全な行動の仕方を考え訓練している子どもたちですが、今日は、その後の避難や生活へと考えを広げることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

「震災から学ぶ」～自分の命を守るために～

講師 上ノ原小学校長 寺本 喜和 氏

第3～6学年

タブレット端末を活用し、事前に撮影した動画を各教室で視聴しました。地震はいつ起きるかわかりません。そこで日頃からの備えによって、その被害を最小限に抑える「減災」の考えが大切です。万が一のとき、自分の命を守るためにどのような行動をとったらいいいのか、スクリーンに登場する様々な場面の画像を通して考えました。地震は学校にいるときに起きるとは限らず、むしろ学校外の時の方が確率的に高いのです。お風呂に入っているとき、登下校中の道路、電車に乗っているとき…、それぞれの場所や状況で、行動の仕方が変わること気付いた子どもたち。自分の頭で考え、判断し、行動に結びつけていくことの大切さを実感することができたようです。

## 3-9 石原小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 家に一人の時に地震が起きたらどうしたらよいか考えよう

第3学年

初めに、家で地震が起こった際に避難する場所や誰に連絡を取るかなどの家庭でのルールを確認しました（事前に、家庭で相談をしてきました。）。その上で、家に自分一人しかいないときにはどうしたらよいか、家のどのようなところに危険が潜んでいるかを事前にタブレットで撮ってきた家の写真を見ながら考えました。また、資料として東京防災や防災ノートをタブレットで活用しながら学習を行いました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防災ノートの活用の仕方

講師 調布消防署員

第5・6学年

防災ノートの活用の仕方を中心にご指導いただきました。最初に、消防署員からは、東日本大震災の救助に当たった時の生々しい災害の状況、避難所の様子等について映像を通して詳しい説明をいただきました。次に、体育館（当日の学習場所）内の防災に関する工夫や設備を児童が探す活動を行い、その後、工夫等の解説をしていただきました。さらに、防災ノートを使って、登下校時にみられる危険個所の見つけ方をご指導いただき、日々の安全管理の意識を高める視点を教えていただきました。児童たちは、iPadで防災ノートを確認したり、近くの児童と意見交換したりしながらの受講で、児童一人一人が自分事としてとらえながら講義を聞く有意義な時間になりました。

最後に、市役所にはハザードマップが作成されており、いただくこともできるので、日頃の備えに活用してほしいとのお話をいただきました。



## 3-10 若葉小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 地震が起こったら…

第1・2学年

1・2年生は、地震が発生したときにどんな行動をとったらよいか、を考える授業を行いました。1年生は「ぐらぐらぐら」という教材で、いくつかの地震が起こったときどんな行動をとるべきか考えました。2年生は、教室にいるときに地震が発生した際、身を守る方法を実際に体験するなどして学びました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防災講話

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署つつじヶ丘出張所の署員の方をお招きして、Zoomを活用した防災講話を行いました。子どもたちは各教室にいながらにして、署員の方のお話を聞いたりDVDを観ることで、防災に関する意識と知識を高めました。

低学年は火災が起きた時の行動の仕方、高学年は東日本大震災の際の消防署員の方々の活躍に関するDVDを観て、火災発生時の的確な行動を学んだり、大地震の恐ろしさを感じたりして、意識を高めました。

また、その後の避難訓練でも署員の方に講評していただき、その際にも避難の仕方について様々な示唆をいただきました。



## 3-11 緑ヶ丘小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 災害から身をまもること、災害への備え、命の大切さについて

全学年

各学年発達の段階に応じた授業を行いました。「さいがいから みをまもろう」（1年）、「防災リュックをつくろう」（2年）、「大地震にそなえよう」（3年）、「命をまもる防災」（4年）、「応急手当の仕方を知ろう」（5年）、「こんなときどうする？（災害対応）」（6年）という内容でした。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「非常時における心構えと準備行動 ～いのちのトーチリレーのおはなし～

講師 稲むらの火& 梧陵翁みらいトーチリレーPJ事務局長・損保OB阪神の語り部 **児島 正裕 氏**

第4～6学年

児島氏を本校にお招きし、本校にてリモート授業をインタビュー形式で実施しました。

#### ①阪神大震災をどこで被災されましたか？

◆神戸支店勤務時代（神戸市中央区元町）

◆西宮社宅で、家族4人で就寝中に。

#### ②直後の状況はいかがでしたか？

◆突然の突き上げ。ジェットコースターに乗っているような横揺れ。

◆わずか数十秒の揺れが永遠に。死を感じた。

◆ベッドに洋服ダンスが倒れ込み、照明器具が落下。

◆長男の部屋にすぐに行けず。ガラスが散乱。まっくら闇。懐中電灯もスリッパもなし。

◆足の踏み場なし。軽いものは飛び、重いものは倒れ、ガラス類・食器などは粉々に。

#### ③会社へはどのようにして行かれたのですか？

◆翌日会社へ原付で。家族を残して。

◆道路が地割れ・陥没。倒れ込んだ建物。傾いた家。

◆余震の怖さ。傾いた家の倒壊、看板・窓ガラス・屋根瓦の落下の脅威。

◆阪神高速道路の倒壊。高架橋落下。至るところで道路寸断。迷路状態に。

◆三ノ宮駅周辺。三ノ宮そごう・神戸新聞会館・神戸市役所の建物が壊滅的な打撃。

◆会社ビルは無事。近くの石造りの堅固な銀行のビルが倒壊、騒然とした雰囲気。

◆1ヵ月後長田へ。空襲の写真にそっくり。目をそむけたくなる凄惨さ。

#### ④阪神淡路大震災から何を学ばれたのですか？

◆震災直後、警察・消防・自衛隊・行政は影も形もなかった。組織的な行動は、1週間後から。

◆家が倒壊、家財が凶器に。事前の備えの大切さ。

◆小学校が地域防災拠点・子どもたちを守り育てる社会的使命。

◆困ったときは、お互いさまで助け合う日頃の行いの大切さ（挨拶から近隣関係を）。



## 3-12 染地小学校

### ◆ 「命」の授業

#### わたしの家の防災グッズ ー何をもっていく?ー

第3学年

数ある防災グッズの中から、自分の家族にあったグッズを10個選択し、その理由を考えます。自分の家で大きな地震にあい、電気やガスが使えなくなったという想定です。特に大事だと思うもの3つを選びその理由をワークシートに書き、友達と意見の交流をしました。

自分や家族の環境に応じた防災グッズの必要性を児童が理解すると同時に、家族とともに考えることの大切さを児童が理解できるようにしたいと考えました。ワークシートは家庭に持ち帰り、家族と話し合う手掛かりとなるようにしました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「自分の命は自分で守る」

講師 調布消防署国領出張所 所長 津田 昌成 氏

第4～6学年

実際に起きてしまった事故や災害をもとに、助けることのできた命や失われてしまった命についてお話をさせていただきました。

日頃の生活の中で、命を守る行動について考えることができました。

コロナ禍のため、集合はできず、4～6年生の各教室でお話をさせていただきました。



## 3-13 北ノ台小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 学級活動 「ひなんのしかたをかんがえよう」

第1学年

1年生になって初めての避難訓練。その前に、「避難の仕方」を考える学習をしました。今回は、安全に素早く避難するためにどうしたらいいかを行動カードに書き、並べ、その順番で行動してみたあと、足りないところや余計だったところを考えました。プログラミング的思考を使っています。小グループで真剣に話し合いましたので、今まで、幼稚園や保育園でも行っていた避難訓練での行動の意味をよく理解することができたようです。この後行った避難訓練では、学んだことを生かして、安全に気を付けながら避難することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

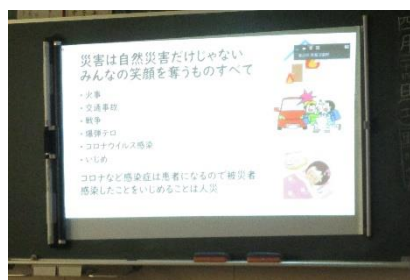
#### 「防災に関する講話」

講師 防災士・陸前高田市高田地区コミュニティ推進協議会 会長 **武蔵野 美和 氏**

第4～6学年

防災士・陸前高田市高田地区コミュニティ推進協議会の武蔵野美和様を講師にお招きしました。

2011年の東日本大震災の経験をもとに、自然災害にとどまらず、広く災害とはどんなものか、災害を受けた時にはどうしたらよいか、などのお話をZoomで伺いました。画面を通してとは言え、陸前高田にいらっしゃる講師の先生の迫力あるお話を伺えたことで、「災害がいつ来てもしっかりと備えておこう」という気持ちをもつことができました。



## 3-14 多摩川小学校

### ◆ 「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守るを考えるー

第3学年

災害が発生したとき、どんな行動をすればよいか、また、どんなものを持って行けばよいかを紙芝居を用いてクイズ形式で考え、話し合いました。

その後、本当に必要なものは何か、一人一人が考えたあと、グループで話し合い、学級全体で共有しました。グループでの話し合いでは、多様な考えに触れ、避難所での生活について考えを深めることができました。

また、日頃の備えの大切さや避難所で役立つ工夫を知り、いざというときのための意識を高めることができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

「自分の命を守るために」

講師 調布消防署員・生活指導主任

第4～6学年

4年から6年生を対象に調布消防署員と生活指導主任でGoogle Meetを使い、オンライン講座「防災教育～地震の備えをしよう～」を実施しました。この学習では、一人一人が防災についての関心や意識を高めることがねらいでした。

過去の地震の写真を見たり、クイズにチャレンジしたりする活動を通し、地震の怖さを知り、自分の身の守り方について見直す良い機会となりました。体験した児童からは、「写真を見て、日本はたくさんの地震が起きていることを知り、とても怖かった」「地震が起きた時の行動を考えたことができた」といった感想を聞きました。

短い時間でしたが、自分自身の身を守る「自助」だけでなく、災害のときに互いに助け合う「共助」の気持ちを高めるとともに、自分ができることを増やそうという気持ちを高めることのできる機会となりました。



## 3-15 杉森小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「じしんがきたら、どうするの？」

第2学年

2年生は「命の授業」で、地震に対する備えについて学習しました。

- ・家にいるときに地震が起きたらどうしたらよいか
- ・家具が倒れないように固定する器具があること
- ・地震の後は学校が避難所になることがあること
- ・非常用持ち出し袋を用意、点検しておく必要があること

防災ノートにある挿絵を見て、自分の命を守るために大切なことを一つ一つ確認をしながら学んでいました。今回の学びから、非常用の持ち物や家族が集まる避難場所を確認するなど防災意識が高まる機会になればと思っています。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

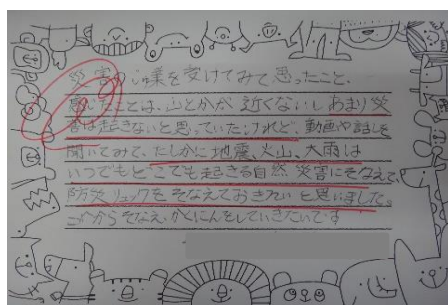
#### 防災啓発映画・講話 『いつか君の花明かりには』から学ぶ

講師 映画監督 山崎 光 氏

第4～6学年

熊本県、広島県、宮城県で起こった災害の映像と災害に遭った方々、防災に取り組んでいる方々へのインタビューで構成されている映画『いつか君の花明かりには』を視聴し、監督で防災士でもある山崎光さんからお話を伺いました。

岩手県陸前高田市で津波の最大到達点に桜の植樹活動をしている「桜ライン311」、熊本県を中心に防災啓発に奔走している防災士、徳島市で自主的に生き生きと防災に取り組む中学生の姿や思いに触れることで、堅苦しいイメージの防災に対して、より身近により温かな気持ちで向き合えるようになる内容でした。大切な人を守るために、誰かにとって大切な自分を守るために必要な防災。その防災の大切さが感じられる時間になりました。





## 3-16 飛田給小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の大切さを考える

第4学年

災害が発生した時に、自分の身を自分で守る力を付けるために、災害が起きた時を想定して、災害の怖さや避難するときに気を付けること、避難時の持ち物について、学年の発達段階を踏まえて話し合いました。

また、多くの災害知識をもつことで、もしもの時に、より正確で迅速な判断ができるように、災害と防災に関する様々な情報をまとめました。もしもの時に、自分や家族の身を守るのは、知識や道具、日頃からのコミュニケーションであることや、小さな備えが大きな助けになることを学びました。授業では、資料として「東京防災」を活用するなどし、災害から身を守る方法について学びました。

どの学年も、それぞれの課題について子どもたちは真剣に考え、意見を発表しました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「地域の防災の取組について」

講師 調布市消防団第一分団 野口 康平 氏 木村 学 氏

全学年

防災啓発講話として、「自らの命は自らが守る」という意識の下、自助・共助・公助のために必要な知識や行動様式を身に付けていくことをねらいとして、地域で様々な防災の取組をしてくださっている調布市消防団第一分団の野口様と木村様のお二人から子どもたちへお話しいただきました。講師の方からは、地域での防災についての取組や日頃の備えの大切さ、避難所で役立つ工夫を教えていただき、いざという時のための意識を高めることができました。

また、自助・共助・公助のために、自宅の家具の置き方の工夫や食料等の備蓄品、安否確認方法、避難場所や避難経路の確認、情報収集の大切さについてお話しいただきました。

最後に、災害時には、出来るだけ決められたとおり行動することが大切であることをお話しいただきました。



## 3-17 柏野小学校

### ◆ 「命」の授業

わたしたちができること—災害が発生した時の自分の行動を考える—

第6学年

6年生では、『わたしにできること』というテーマで授業を行いました。「1人で留守番中」「友達と新宿駅にいる時」など、いろいろなケースにおいて、自分の身を自分で守るための最善の方法は何か、グループで話し合いました。まずは発生からの時間を3つに分け、それぞれの困難を挙げ、取るべき行動を考えました。「発生した瞬間」「1時間後」「保護者に会うまで」どんな困難が出てくるか、東日本大震災当時の写真を見て、「自分がここにいたら」と自分事として考えました。経験したことがないことが起きた時に、今までの経験を生かして行動することができるように、意識を高めることができました。



第6学年



第1学年



第4学年

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

「自分の命を自分で守るためにどうする？」

講師 川崎市多摩消防署 消防士 齋藤 輔 氏

第4～6学年

川崎市の消防士である齋藤輔さんを講師に招き、「自分の命を自分で守るためにどうする？」というテーマで、Zoomによる防災講話を実施しました。地震・火災・水害といった自然災害の恐ろしさや、そのときの行動の取り方、避難訓練の意義等について話がありました。講話を聞いた子どもたちからは、「水で消せる火と消せない火があるということを知らなかった」「自分で友達を助けたくても、大人に伝え、消防の人に任せることが大切だと分かった」「地震が起きる前に避難する場所を考えておこうと思った」等、多くの気付きがありました。実際に災害が起きた時にどのような行動をとれば良いか、一人一人が知識や意識を高めることのできる時間となりました。



## 3-18 国領小学校

### ◆ 「命」の授業

#### 大地震が起きた時、自分がどのような行動を取ったらよいかを考えよう

第6学年

6年生は、東日本大震災発生時の様子や被害の状況を振り返り、大地震が起きた時取るべき行動について学習しました。授業の前日の午後6時にどこで何をしていたのかを確認し、その時刻に多摩直下型の震度6の地震が発生していたとしたら、どのような被害が予想され、自分に来ることは何なのかを意見を出し合いました。それぞれの考えの共通点や特徴をまとめ、危険を回避し、命を守るためにどのような行動を取るべきなのかを理解することができました。

#### 防災ワークショップ

第5学年

5年生は、広域避難場所と避難所にはどのような違いがあるのかを学び、被災時に自分が避難すべき場所を確認しました。授業後半には、三角巾を用いた手の被覆法や腕のつり方を実際に体験し、非常時の応急手当の仕方を意欲的に学ぶことができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「万が一災害にあった時に備えて(児童が自助・共助力を身に着ける)」

講師 埼玉県自主防災組織リーダー養成指導員/上級セーフティリーダー/防災士/応急手当普及員 **大城戸 修一 氏**

第4～6学年

「防災ってどういうこと？それは生活が立ち行かないこと」という基本のお話から始まり、その後災害について国内の歴史や自然災害と人為的災害の違い、地震のメカニズムや種類について説明されました。また、事前に用意していただいた第六中の写真や、調布市国領という自分たちの町についての資料を確認し、大切なのは災害後の生活であり、そのためにはどんな備えが必要なのか具体的に教えていただきました。

「一番守らなくてはならないものは『命』であり、助けられる人ではなく助ける人になろう」と真剣にお話してくださいました。最後に「知識があるだけでなく実践できる児童を育ててください」との教員へのお言葉も心に残りました。



## 3-19 布田小学校

### ◆ 「命」の授業

あなたならどうする？～自分の身は自分で守る～

第3～6学年

校長・副校長からのメッセージ「自分の身は自分で守る」を受け取った子どもたちは、大震災時を想定し、自分の身を守るための具体的な行動を考えました。

第3学年 家にどのような防災グッズを準備しておくのがよいかを考える

第4学年 家に1人有的时候に大きな地震が起きた時の自分の身の守り方考える

第5学年 避難所で自他を尊重しながら生活するために必要なことを考える

第6学年 バスや電車を使った外出先で大きな地震が起きた時の行動を考える

子どもたちは、それぞれの場面での具体的な行動を考えるを通し、「自分の身は自分で守る」ことの大切さを学ぶことができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

「震災に備えるための心構え」

講師 布田小学校長 樋川 宣登志 氏 同副校長 石津 孝介 氏

全学年

震災は、いつやってくるかわかりません。すべての子どもが、震災に備えるための心構えをもつことは、自他の命を守るうえで大変重要なことです。子どもたちが「大人がなぜ、避難訓練を計画・実施しているのか、自分たちはどんな心構えをもっていけばよいのか」分かるように、校長・副校長がZoomによるオンライン講話を行いました。校長は、1854年の安政南海地震津波をもとにつくられたという物語絵本『津波！！命を救った稲むらの火（原作：小泉八雲 文・絵：高村忠範 汐文社）』の読み聞かせをし、昔から語り継がれる災害を紹介しました。副校長は、東日本大震災で被災した「石巻市立大川小学校」を、副校長自身が訪れた際に撮った写真を用いて紹介しました。そして、二人から「皆さんには、いつやってくるかわからない震災から命を守る



力をつけてもらいたい」という話をしました。子どもたちは、「自分の身は自分で守る」という心構えをもち、その後の防災の授業・避難訓練に臨みました。

## 3-20 調和小学校

### ◆ 「命」の授業

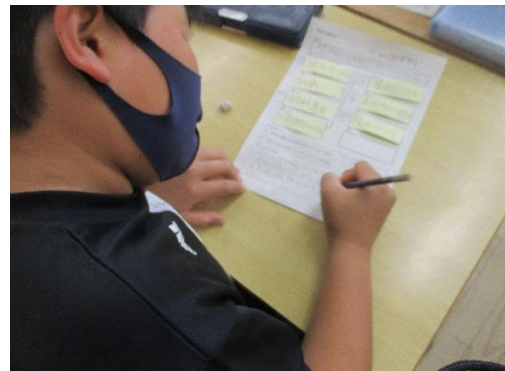
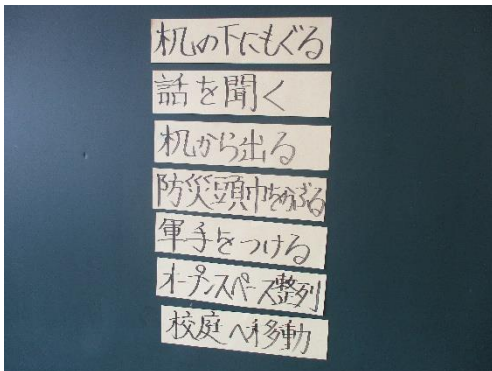
#### 避難訓練のプログラムを考える ー命を守るためのプログラミングー

第6学年

災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、日頃の訓練や避難方法の順序を考えることが大切です。教師の指示や放送を聞いて避難するだけでなく、実際に地震が起きたらどのような順序で行動すればよいか話し合いました。

「教室で地震が起きたら」という想定の下、地震が起きた際の行動を付箋に書き出し、校庭に避難するまでの順序を考えました。(アンプラグドによるプログラミング学習)

「防災頭巾を被る」「机にもぐる」といった順序を考えることにより、行動の目的を再確認し、防災に対する意識を高めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「日頃からの備えと家族との約束について」

講師 調布消防署員

全学年

避難訓練の講話として、調布消防署の方から避難するときの留意点のお話をいただきました。

日頃からの備えとして「あわてないこと」と「お・か・し・も」を守ることは大切なこと。避難中はおさない、かけない、しゃべらない、もどらないが基本。一人ひとりに必ず守って欲しいとのことでした。

もし家で、防災頭巾がなかったら座布団やクッション、自転車のヘルメットでもよく、使えるものを考えておくと良いそうです。

家族の人にも伝えて欲しいワンポイントアドバイスは、非常食を用意しておくこと。ガスや電気などライフラインの復旧に3日かかるため、3日分の家族の食料を保管が必要だそうです。

そして最後に大切なこと、それは家族と約束事を決めておくこと。万が一災害で家族と離れ離れになってしまった時、どこに集まるのかを決めておくということです。「今日、家に帰ったら、お家の人とよく話し合っておいてください」とのお話でした。

## 3-21 調布中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

##### ○1年生 『ひまわり』

東日本大震災で家族を失った作者がひまわりを育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がりやがて語り部として生命の尊さについて伝える活動を始めます。作者の心情により添うことで語り部としてどんなことを伝えたいかということを考えさせられました。

##### ○2年生 『命が生まれるその時に』

生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命を尊重することについて考え、出産や震災という生きているのは当たり前ではないと感じられる場面から「生きている」ことの尊さを深く見つめ考えさせられました。

##### ○3年生 『あの日 生まれた命』

東日本大震災の中、我が子の誕生と、祖母の死を同時に経験し、子どもの誕生を率直に喜べない母親の元に一脚の椅子が送られてきます。その椅子に込められた思いから母親の心が少しずつ変化していきます。3月11日に起こった生と死、それを取り巻く家族の思いを考えることで、命のかけがえのなさ、そしていかにして命を大切にしていかにしていかについて考えさせられました。

○各学年ともにタブレットを使用するなど、工夫した授業が展開されました。生徒は真剣に考え、一生懸命に取り組んでいました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「現地で被災した人から聞いた東日本大震災」

講師 石巻市役所地域振興地域協力隊 防災士 武井 友佑 氏

全学年

被災地石巻の地域おこし協力隊での体験談などを石巻よりZoomで講話をいただきました。

東日本大震災で実際に被害にあった方々の話、またその後の被災地の状況について、さらに復興の大変さ、今後実際に地震が起こった時の備えなどをわかりやすく話をいただきました。

オンラインでの講話でしたが、生徒も一生懸命に聞いていました。今後の災害が起きた時に大変参考になる話でした。



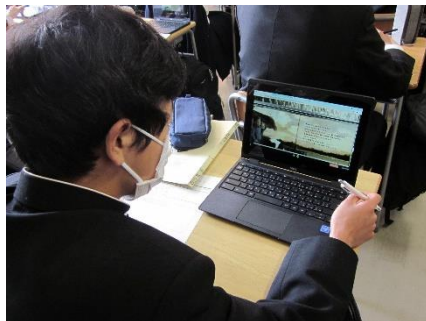
## 3-22 神代中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さを考える授業(道徳)

全学年

学年ごとに「生命の尊さ」を考える授業を実施しました。1年生は「ひまわり」、2年生は「希望の牧場・ふくしま」という教材を用いた授業を、3年生は、東日本大震災の時に石巻で被災した小川先生から当時の体験について話を聞きました。「今日、話をすることで当時のことを思い出さないといけない。悲しい思い出です。ですが、僕の話を通して、大切な人を守る、未来に生かす指針になればと思い、話すことにしました」という小川先生の真に迫る内容に、改めて自然の脅威と、災害を想定し備えることの大切さを実行することができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 「地震発生時の身の守り方」

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署の方から、オンラインで防災に関する講話を伺いました。普段使用しているスマホが使えない状況を想定したり、防災マップ上で家の近所が危険なゾーンであることを知ったりと、日常生活を振り返ることができました。「中学生は、守られるだけでなく守る側にもなる」という言葉を聞き、「自分たちも地域を支える」という気持ちを強くもちました。

避難訓練では「先生の指示に従っていて、素晴らしい。でも、実際の災害時には先生がいないこともあります。どうすればいいのか、常に考えて行動してください」と大切なアドバイスをいただきました。



## 3-23 第三中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

学年ごとに、それぞれ「命」をテーマに授業を展開しました。東日本大震災で家族を失った人が悲しみから立ち上がり、語り部として生命の尊さを伝える活動をしていることを通して、命を尊重することを学ぶ学年や、国から出た家畜の殺処分の指示に反対し、牛飼いとしてただ牛を育て続ける人の話を通して、震災の後の人間の都合によって振り回される動物の命について深く考え、話し合いをする学年などがありました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防火防災に関する講話

講師 防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 中野 智文 氏

全学年

自衛隊から講師をお招きして、災害時の安全対処についての講話を実施しました。ソーシャルディスタンスの観点から全校生徒を体育館に入れるのは難しく、一部は別会場での中継となりました。東日本大震災の映像に始まり、巨大地震の際のより安全な行動についてクイズ形式で学びました。その行動についての具体的な理由も丁寧に説明してくださるとともに、講話の後の数々の質問にも詳しく答えてくださり、より深い学びとなりました。





## 3-24 第四中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)「あの日 生まれた命」

第3学年

東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、命の尊さについて考えさせ、自他の生命を尊ぶ心情を育みました。これまでの学習の中で、生徒たちは、生命の誕生や死などを見つめることを通して、命の尊さについて考えてきました。しかし、「生まれる命」と「失われる命」のそれぞれについて対比しながら考える機会はあまりありません。今回の題材を通して命に対する、さまざまな人の思いに目を向けることで、命の尊さをより深く見つめ、命を大切にすることとはどういうことなのかを考えました。個人で考え、小グループで話し合い、クラスで共有するというプロセスで自分の生き方を深く見つめることができました。

### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防火防災に関する講話「自然災害に備えて」

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署の方を招き、防火防災に関する講話を、オンラインで行いました。「台風19号について」「土砂災害について」「震災について」の3つについて、実際の写真や動画などを用いて分かりやすく説明してくださいました。さらに、気象庁のデータなどを用いて論理的に説明もしてくださいました。多摩川などの身近な川で起きたことで、より現実味のある話になりました。生徒の感想も「改めて災害は怖いと感じた。映像のようにパニックになったり、叫んだり自分はいないだろうと想着いても、実際に災害が起きたらそうなってしまうかと思うと、他人事ではないなと感じた」「実際に起こったときには、中学生として、人の役にたてる行動をしたいです。高齢者や幼児の手助けをすることや我慢できるものはするなど、今たくさん考えをもち、焦ったとき正しい行動ができるよう意識したいと思いました」など、いざというときのための意識を高めることができました。



## 3-25 第五中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 自然災害に備えて

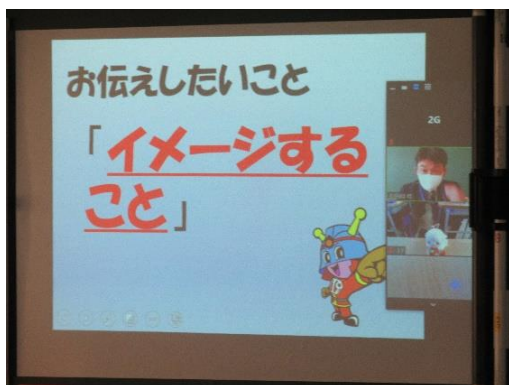
講師 調布消防署地域防災担当係長 **関根 大輔** 氏

第1・2学年

調布消防署より講師をお招きし、「自然災害に備えて」をテーマにZoomを使用し講演していただきました。講演内容は大きく分けて3つありました。

- ・令和元年度10月12日～13日に上陸した台風19号の調布市内の状況について
- ・土砂災害に備える（調布市防災マップの活用）
- ・震災に備える（東日本大震災 阪神・淡路大震災 新潟県中越地震の教訓から）

生徒は講演を通じて、「自助・共助」を学びました。まずは、自分の身は自分で守る。そして、お互いに助け合うことが大切であり、そのためには、普段から勇氣ある生き方をする。また、正解はないが、最悪の状況をイメージできれば対処方法も良い方向に考えられます。講演の最後に関根さんより、「君たちは未来の防災リーダーです！」と強いメッセージをいただきました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防火防災訓練

講師 調布消防署員

第3学年

調布消防署員による、消火器訓練、煙体験（煙の中での視界の悪さを体験）、救助訓練（下敷きになった人を助ける訓練）、担架訓練（棒と毛布で担架を作り、人を運ぶ訓練）を実施しました。防災や救急法への関心を高めることがねらいでした。

災害のときに互いに助け合う共助の気持ちを高めるとともに、自分ができることを増やそうという気持ちを高めることのできる体験活動になりました。



## 3-26 第六中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 「ボランティアの心構え」について考えよう（学級活動）

第1学年

ボランティア活動の意義や活動内容等について理解することをねらいとして、東日本大震災の被災者の立場になって、自分にできることを考え、グループで意見交換をしました。中でも、「ボランティアを受ける側の被災者の気持ち」を想像し、「手を貸して欲しい」「立ち入った話を聞いて欲しくない」「見知らぬ人に任せて大丈夫かな」などの意見がありました。また、「ボランティアをする側はどんなことに気を付けるとよいか」について話し合い、「自己満足にならない」「活動する側の気持ちを押し付けない」「ありがた迷惑にならないようにする」などの意見があり、ボランティアを受ける側と行う側との思いの違いについて気付くことができました。この授業を通して、真のボランティアとは何か、自分にできることは何かについての考えを深めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防災に関する講話・避難訓練の講評

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署員の方から、防災に関する講話として、「自助」「共助」「公助」の大切さについてお話がありました。その中で、防災減災の在り方、地域防災力の向上に触れ、中学生は助ける側であり、救助活動、搬送、消火活動の手伝いが期待されているとの話がありました。

また、実際の避難訓練の様子を観察していただき、講評をしていただきました。全校生徒が真剣に臨む姿を評価していただき、大変印象深い講話となりました。



## 3-27 第七中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

各学年で共通の資料を使い、全クラスで「命の授業」が行われました。

1年生は、新聞社の記事をもとに書籍化された「妻が願った最期の七日間」というテレビ番組を基に命について考えました。

2年生も「命が生まれるその時に」を題材に、詩「いのちの音」と出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ということの尊さについて考えました。

3年生は「命の選択」という題材で祖父の意思に反して延命措置を施すことに葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を通して、命について考えさせました。どの学年・クラスの生徒も「命」というものを考える授業となりました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 災害時に求められる判断の難しい問い

全学年

1・2年生は、「災害時に求められる正解のわからない判断」について考えました。その目的は、災害時のどちらか判断の難しい問いに対して積極的に考え、表現し、協働して解決策を模索し、事前の備えの必要性を理解することです。例えば問1は「あなたは、津波の心配のない学校にいます。大きな地震が起きた後、自分は無事でしたが、先生は『しばらく学校で待機するように』と言っています。でも家では10歳の妹が風邪で寝ています。両親は仕事先から帰ることはできません。それでも先生の指示に従いますか?」というものです。生徒は、自分の出した結論に対してその理由やそのことによってどんな問題が生じるかなどを考えました。



3年生は、「もしも学校が避難所になったら～避難所誘導を手伝ってみよう!」をテーマに災害対応トレーニング教材を使用して授業を行いました。ストーリー形式で災害時の状況をイメージし、その後、学校での避難所開設を想定し、「避難誘導」の支援活動を図上演習しました。

## 3-28 第八中学校

### ◆ 「命」の授業

#### 【道徳】 命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

各学年とも、東日本大震災を題材にした教材を用いて命の尊さ、大切さを考えました。

1年生は、被災地のスタジオで撮影に関わる仕事をする写真家の体験を描いた漫画を資料として、スタジオを訪れる人たちや残された家族の思いについて考えました。

2年生は、震災を経験した同年代の子ども達の作文を読み、生きていることのありがたさに深く思いを寄せ、生命の大切さについて深く考えました。

3年生は、被災した中学3年生による卒業生代表の言葉を資料として、今生かされているものとして生きる決意、家族や先生、仲間への感謝の気持ちなどを受け止め、真剣に考えていました。

映像資料などを工夫した教師からの発問を基に、生徒たちから出た命の重さや生きることの大切さについてグループで意見を交換し合い、自分の考えを深めることができました。



### ◆ 児童・生徒への啓発活動・体験

#### 防火防災に関する講話・訓練

講師 国土交通省京浜河川事務所統括地域調整官 **小池 信之 氏**

全学年

京浜河川事務所の方に、多摩川の治水・水害時の行動についてオンラインにて講話をしていただきました。国土交通省が作成した動画を交え、令和元年東日本台風の被害の様子などについても解説していただきました。調布は被害の出た地域でもあるので、生徒にとっても身近な問題としてとらえていました。「東京防災」マイ・タイムラインを使って家族で話し合うことの大切さにも触れていただき、震災だけでなく水害という視点からも防災意識の向上につながりました。

